



平成 18 年 10 月 19 日

各 位

会社名 日本精鉱株式会社
 代表者名 代表取締役社長 岩山 統
 (コード番号 5729 東証 市場第 2 部)
 問合せ先 常務取締役企画管理部長 鳩川勝美
 (TEL. 03-3235-0021)

平成 19 年 3 月期 中間期業績予想 (連結・個別) の修正に関するお知らせ

平成 18 年 5 月 18 日の決算発表時に公表しました平成 19 年 3 月期 (平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日) の中間期の業績予想を下記のとおり修正しましたのでお知らせ致します。

記

1. - 1 中間期 (連結) の業績予想の修正 (平成 18 年 4 月 1 日～平成 18 年 9 月 30 日)
 (金額単位: 百万円)

	売上高	経常利益	中間純利益
前回発表予想(A)	3, 600	430	165
今回修正予想(B)	4, 200	430	165
増減額(B)-(A)	600	0	0
増減率 (%)	16.7	—	—
(ご参考) 前年同期実績	3, 019	348	131

1. - 2 中間期 (個別) の業績予想の修正 (平成 18 年 4 月 1 日～平成 18 年 9 月 30 日)
 (金額単位: 百万円)

	売上高	経常利益	中間純利益
前回発表予想(A)	2, 000	150	90
今回修正予想(B)	2, 500	180	110
増減額(B)-(A)	500	30	20
増減率 (%)	25.0	20.0	22.2
(ご参考) 前年同期実績	1, 691	107	72

2. 修正の理由

アンチモン事業（当社事業）は、中国での委託生産品の汎用三酸化アンチモンの東南アジア向け輸出の増販、および国内向けアンチモン酸ソーダ等の三酸化アンチモン以外の製品も販売が好調で、販売数量は前年同期比 9%の増加となりました。

また、製品価格の基準となるアンチモン地金の国際相場において、当中間期の平均価格が年初と比べて約 40%アップするという騰勢が続きました。

主として上記の二つの要因により、同事業（即ち、個別の業績）の売上高は、当初予想より 25.0%増加となる見込みで、利益面では原単位あたりの原料代が前年同期比 50%強のアップとなりましたが、時期が若干ずれ込んだもののほぼ製品価格に転嫁できつつあり、当初予想より約 20%の増益となる見通しであります。

金属粉末事業も銅を始め非鉄金属相場の高騰により売上高は当初予想より 10%強増加の見込ですが、一方利益面では相対的に収益性のよい電子部品用微粉の販売量が当初予想より若干減少したため、当初予想の利益より僅かに下回るという見通しであります。

以上の状況により、連結・個別とも売上高が当初予想よりそれぞれ 16.7%、25.0%増加する見通しとなり、業績予想を修正するものです。なお、連結・個別とも経常利益、中間純利益は修正発表不要の範囲に納まっておりますが、ご参考まで記載致しました。

3. 通期業績予想

現在集計中であります。

以上